

解説 1

塑性加工現場の安全の 仕組みづくり

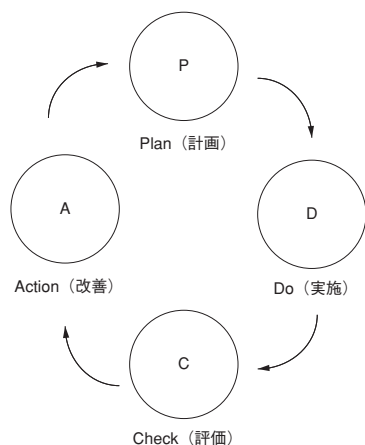
(株)小森安全機研究所 渡部鷹人*

人類はこの地球に誕生してから現在に至るまで、その生命を脅かす様々な危険に取り囲まれている。科学技術が発展した当世においても危険を完全に

* (わたなべ たかひと) : 本社営業所所長
〒343-0846 埼玉県越谷市登戸町 19-14
TEL : 048-961-6789 FAX : 048-961-6123
e-mail : watanabe@komorisafety.co.jp

- ①危険源の特定
→ 「設備」、「作業」のどこに危険があるのかを明確化する!
- ②危険源の見積もり
→ 特定した危険源を数値化して優先順位をつける!
- ③危険低減措置
→ 4つの対策から順番に対策をする!
- ④危険源の再評価
→ ①にもどって再特定、再見積もり、再対策!

図1 リスクアセスメント概略



※PDCAサイクルは中断せず持続させていくことが大事!

図2
PDCA
サイクル

除去することはできず、むしろその発展により生じた危険も存在している。塑性加工により発生する危険もその一つである。本稿では塑性加工現場にて発生が予見される危険に焦点を合わせ、その危険に対抗する安全の仕組みづくりについて、リスクアセスメントやPDCAサイクルの手法も用いながら解説していく (図1、図2)。

危険は完全には 除去できないことを知ろう

安全という言葉を文字通りに捉えると「全く安らか」な状態を意味する。言い換えると一切の危険が存在しない状態である。しかし我々にそのような状態がかなえられる術はなく、病魔、人間の

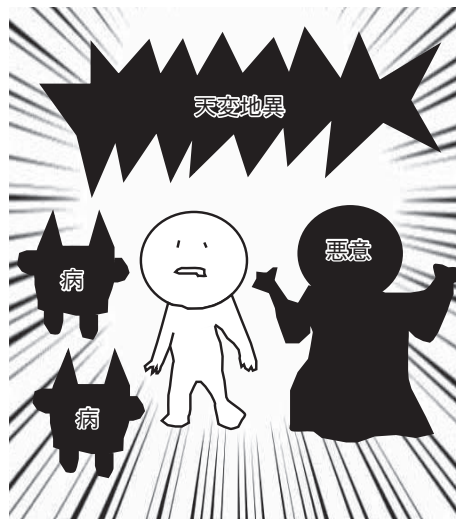


図3 我々を取り巻く危険